

# 安全な牛肉を食卓へ！ ～神奈川県の実策～

平成13年、日本で初めてBSE（牛海綿状脳症）に感染した牛が確認されてから、牛肉の安全性を確保するため、わが国では、様々なBSE対策に取り組んできました。

ここでは、現在の神奈川県のBSE対策をご紹介します。

そもそもBSEって  
どんな病気なの？



BSEは、牛が、BSEの原因物質が混ざったえさを食べることで、脳がスポンジ状になり、立てなくなるなどの症状がでる病気です。BSEに感染した牛の脳などを人が食べることにより、変異型クロイツフェルトヤコブ病<sup>※1</sup>となる可能性があります。



※1 BSEと変異型クロイツフェルトヤコブ病は、いずれもTSE（脳がスポンジ状になる病気の総称）に分類される病気です。

## BSE対策ってどんなこと？

～えさ工場・農場での取組み～

- 牛のえさにBSEの原因物質が混ざらないように管理
- 牛を1頭ずつ個体識別番号で管理
- 死亡した2歳以上の牛のBSE検査



原因物質が混ざったえさを与えないことで、感染しないようにしているんだね。万が一、BSE感染牛が見つかったら、その牛がどこで飼われていたのか、どんなえさを食べて育ったのか個体識別番号でわかるんだね。




## BSE対策ってどんなこと？

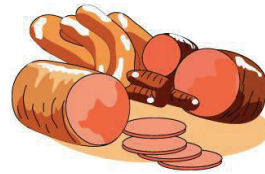
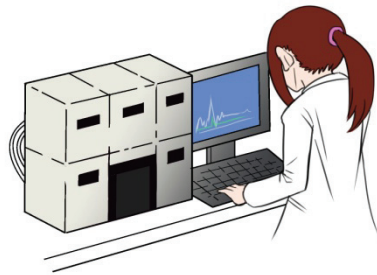
～と畜場での取組み～

- BSEの症状がないか検査
- 「特定部位」※2の完全な除去

※2 特定部位：BSEの原因物質がたまりやすい牛の体の部位で、脳、扁桃、脊髓、小腸の最後の部分などのことです。




と畜場では、BSEの検査をしたり、食品になる肉に特定部位が混ざらないようにしているんだよ。



- 1 このような対策によって、日本では、平成14年2月以降に生まれた牛ではBSEは発生していません。
- 2 この11年間の調査や研究の結果、次のことがわかりました。
  - 今までどおりの対策をしっかりと継続していけば、今後、日本でBSEが発生することはほとんどない。
  - 仮に、4歳以下の牛が、BSEの病原体を持っていたとしても、「特定部位」を確実に除去すれば、人への安全性は確保できる。

このため、平成25年7月からは、4歳を超える牛を対象に、BSE検査を実施し、わが国で行っているBSE対策がきちんと効果を上げているかどうかを、確認しています。

と畜場では、4歳を超える牛のBSE検査の実施と特定部位の除去を確実にを行うため、牛の月齢を確認して、1頭ごとに区別をしています。



今までと変わらずに、安全な牛肉を食べることができるんだね！！